

# 平成26年度学校自己評価システムシート ( 県立浦和西高等学校 )

目指す学校像	自主自立の精神を生かして、国際社会で貢献できる人材を育成し、地域に信頼される進学校を目指す。
--------	--

重点目標	1 高い学力の定着と第一志望の実現 2 地域に開かれ、信頼される学校づくり 3 自己管理できる生徒の育成
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	僅かではあるが毎年、前年を上まわる実績を残している。 県の委嘱事業等を活用して、名門浦和西高復活に向けて全校あげて更に取り組み必要がある。	高い志を育成し、高い学力の定着と第一志望の実現を推進する。	1. より高い進路選択ができるよう、きめ細かい進路指導を行う。 ・西高CAN-DOリスト(到達度目標)の作成。 ・各教科、科目の達成度の明確化。 ・西高学力スタンダード(自学自習プリント)の充実。 ・新教育課程による大学入試センター試験等への組織的な取組の充実。  2. 授業力向上プログラムを活用し、教員の授業力を高める。 ・生徒による授業評価アンケートの実施。	1. きめ細かい進路指導を十分に実施できたか。 ・到達度目標を作成できたか。 ・各教科、科目の達成度の明確化ができたか。 ・自学自習プリントの充実が図れたか。 ・国公立大、難関私立大学合格者数が増えたか。 2. 教員の授業力を高めることができたか。 ・授業改善に反映されたか。	高い志を育成し、高い学力の定着と第一志望の実現に向けて成果を上げている。 1. 校長による3年生全員面接、担任や進路指導部担当者によるきめ細かい面接指導を実施。 ・西高CAN-DOリスト3月完成予定。 ・学習内容の見える化が進んでいる。 ・統一独自教材を作成。 ・セクター試験受験者数過去最高97%(352/364名)。国公立大合格者38名(昨年度39名)。難関私大31名(昨年度19名)。GMARCHE179名(昨年度153名)。3/19現在 2. 授業アンケート2回実施。授業評価ソフトの不具合により、個別診断表の作成が遅れ、授業力の向上、授業改善に反映しにくかった。	B  1. 「トップを目指せ!学力パートナーシップ推進事業」等を活用し、名門浦和西高復活にむけて、「チーム浦和西高」で取り組む。  ・西高CAN-DOリストを効果的に活用していく。  2. 授業評価ソフトの改善を図り、アンケート分析、結果の改善への方策を構築する。
2	地域に開かれた学校づくりは進んでいる。 創立80周年を機に、更に信頼される学校になるためには生徒、保護者、地域、学校が一体となって取り組む必要がある。	地域との緊密な連携を図り、地域に開かれ、信頼される学校づくりを推進する。	1. 地域と連携を図り、小中学校、大学、地域住民との交流を推進する。 ・小高交流事業、中学校への出張講座、埼玉大学留学生との交流の実施。 ・学校通信を毎月発行。 ・HPを随時更新。(特に部活動) ・県立学校ニュースへの情報提供。  2. 学校説明会、土曜公開授業等の機会をとおり、積極的に本校のよさをPRしていく。  3. 生徒会等を中心に地域ボランティアへの参加を推進する。	1. 地域住民との交流は進んだか。 ・計画通り実施できたか ・毎月発行できたか。 ・随時更新できたか。 ・迅速、正確な情報が提供ができたか。  2. 本校への来校者数等が増えたか。  3. 地域ボランティアへの参加を推進できたか。	地域と連携を図り、地域に開かれ、信頼される学校づくりを推進した。 1. 地域との交流も進み、思い出に残る創立80周年記念式典が挙げてきた。 ・小中、大学の交流事業等計画通り実施。 ・学校通信毎月発行。(埼玉教育1号に取組を掲載) ・HPを随時更新。月13件のペースで更新。(読売新聞で学校紹介記事掲載) ・県立学校ニュースへの情報提供、昨年度の2.1倍 2. 学校説明会参加者、昨年の1.03倍。土曜公開授業来校者、昨年の1.18倍。中学生の進学希望状況1.56倍(昨年1.53倍) 3. 生徒会、運動部、PTAが中心となって、西高クリーンアップ作戦の実施や斜面林友の会への参加、ボランティア活動が推進できた。	A  1. 継続して学校情報を配信する必要がある。  2. 今年度実施後の諸課題を次年度に生かしていく。  3. 継続して、地域ボランティアへの参加を推進する必要がある。
3	様々な取組により成果を上げているが、一部に品位に欠ける生徒がいる。 将来、社会のリーダーとして活躍するためには、より高い自己管理・表現のできる生徒を育てていく必要がある。	互いの信頼関係のもと、自己管理・表現のできる生徒を育成する。	1. 生徒の自主的な活動を支援し、自己管理・表現のできる生徒を育成する。 ・毎朝の校門挨拶指導、整容指導等とおして、簡素・清潔・軽快を旨とする気品溢れる生徒を育成。 ・部活動、生徒会活動の充実。  2. 国際理解教育の先進校として、県の企画提案事業等を活用して、講演会の実施や異文化理解教育をおしてグローバルリーダーとしての資質を養う。 ・異文化交流、留学生の受入・派遣の推進。	1. 自己管理・表現のできる生徒を育成できたか。 ・気品溢れる生徒を育成できたか。 ・部活動等の質を高め、上位大会等へ出場できたか。  2. 生徒の海外派遣事業等の参加者が増えたか。 ・国際理解教育に関する講演会等の実施により、異文化理解が進んだか。	規範意識が高まり、生活習慣の確立も進み、自己管理・表現のできる生徒の育成を継続中。 1. 知・徳・体のバランスのとれた生徒が増加し、誇りと自信を持って学校生活を送れるようになってきた。 ・勉強、部活動、学校行事に主体的に取り組む生徒が多くなった。 ・部活加入率94.2%。部活動がより活発になり全国大会・関東大会出場等好成績を残した。 2. 海外派遣事業等の参加者の増減なし。 ・チェコ、オーストリア、フランス、デンマーク、韓国の留学生の受入、講演会を通して異文化理解教育が促進できた。	A  1. 分掌間の連携を密にし、生徒情報の共有をさらに図る。  2. 国際理解教育の先進校として、国際交流委員会を中心にさらなる工夫・検討を加え充実を図る。

学校関係者評価	実施日 平成27年2月21日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を参観し、本当に勉強する環境になっている。授業で寝ている生徒は誰もいなかった。大変感動した。</li> <li>・よく取り組んでいる。敬意を表したい。達成度Aでも良いのではないかな。</li> <li>・進学できる環境があるということは幸せであるとわかってほしい。進学率だけが目標になってしまったら駄目である。自分の目標を決めて、頑張してほしい。勉強ができて、一般教養や常識がない人が多いといわれる。それらを身につけてほしい。</li> <li>・浦和西高校を希望している生徒が多い。まさに行きたい学校になっている。地域で評価されている証である。達成度Aはふさわしい。</li> <li>・大学出張講座は生徒の希望を踏まえて、2年生対象に行ったことは良かったのではないかな。</li> <li>・地域との交流の中で、障害者交流センターとも何かやってほしい。</li> <li>・生徒会3機関メンバーだけでなく、全校生徒に広げ、地域ボランティアを推進したい。</li> <li>・貴重な高校生活なので、勉強だけでなく、部活や友人関係を築くなどたくさん色々な経験をしてほしい。「西高生は匂いが違う」他の学校の生徒より大人っぽい。そして西高の卒業生というだけで協力してもらえる。そういう伝統を大事にしてほしい。</li> <li>・世界で活躍するリーダーを育てる点で留学生受入れは良い。ディベートも良い。ただ国際理解が進んだとどう評価するのか、今後検討してほしい。</li> </ul>